慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	イー・エー・ジェ・ジョンソン博士著 アダム・スミスの諸先蹤英国経済思想の発達
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1937
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.31, No.11 (1937. 11) ,p.1689(139)- 1694(144)
JaLC DOI	10.14991/001.19371101-0139
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19371101-0139

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

イー・エー・ジェ・ジョンソン博士著

『アダム・スミスの諸先蹤。英國經濟思想の發達』

高橋誠一郎

米國コーネル大學、哲學博士イー・エー・ジェ・ジョンソン氏（E. A. J. Johnson）は其の纂輯に係る『プレンチース・ホール經濟學叢書』中の一冊として本一千九百三十七年『アダム・スミスの諸先蹤。英國經濟思想の發達』（Predecessors of Adam Smith. The Growth of British Economic Thought.）を公にした。著者は一千八百九十九年、The Economic Writings of Sir William Petty, together with the Observations upon the Bills of Mortality, more probably by Captain John Graunt. 二卷を出版して、總べての經濟思想史研究者の感謝を受けつゝあるコーネル大學の先輩ハル博士（Charles Henry Hull）の追憶に此の書を捧げてゐる。

著者は、アダム・スミス以前の英國經濟文献が屢々誤解せられ來つたことを久しい以前から感じて居つた。斯くの如き誤解は、多數の批評家が、總べてのスミス以前の著者を、重商主義者若しくは自由貿易論者として分類するに苦心すること餘りに大なりしに基くものである。重商主義者と呼び、自由貿易論者と云ふも、是れ等の言辭は孰れも定義すること容易ならざるものである。然も、其の意味に關して完全なる一致が存するに非ざれば、是れ等のものは殆んど批判的範疇として使用せらるゝを得ざるものである。著者は浩瀚なる初期英國經濟思想文献を取扱ふ

可きより遙かに直截的なる方法の存することを信ずるものである。須らく諸觀念の發達的構造に力點を置き、而して這般の構造の組成に影響しつゝある各重要なる新知識的要素を特筆す可きことが是れである。(ibid., p. vii.)。余の如きも、久しき以前よりして、重商主義及び自由主義を必ずしも對蹠的のものと考ふることなく、重商主義者を以つて、重商主義者の事業を繼續し擴張せるものと觀じ、アダム・スミス及び自由主義經濟學說を以つて、是れ等二種の學說を同一の經濟觀念の發達に對する諸思想家の貢獻の跡を考察するに努めて來たのである。(昭和七年版拙著『重商主義經濟學說研究』參照)。

ジョンソン博士の言ふが如く、「重商主義(マーカンチリズム)」なる語は定義すること著しく困難なるものである。此の語は屢々其の批評家によつて、貴金屬の輸入餘剩を願望するの信念を意味するものと思惟せられた。ウィルヘルム・ロッシャーの如き更らに優れたる歷史家は、斯くの如き定義を以つて狹きに過ぐるものと認め、此の語を以つて、貴金屬、外國貿易、製造、稠密なる人口の望ましきこと、及び經濟事項に於ける國家的行動を强調し過ぐる教義的傾向の一連を意味するものと解釋した。(Geschichte der National-Oekonomik in Deutschland, 1874.)。グスタッフ・シュモラー及び其の學徒は「重商主義」の意味を擴張し、近世初期に於ける國家建設(Staatsbildung)の經濟的過程の總べてを包含するものと做した。(The Mercantile System and its Historical Significance, illustrated chiefly from Prussian history, being a chapter from the Studien über die wirthschaftliche Politik Friedrichs des Grossen, 1884.)。然るに、ヘックシャー(Eli F. Heckscher)は中世より一千七百二十年に至る經濟政策に關する其の詳密深遂なる近業中に於いて、此の語に對して更らに廣汎なる意義を與へ、「重商主義は、コルベール若しくはクロムウェルが存在したと云ふ意味に於いては、嘗つて存在したものではない」と做し、そは適當に選定せられたならば、吾人が他の方法を以つて理解し得るよりも更らに明瞭に特殊の歷史的一時期を理解するを得せしむ可き手段的若しくは用具的概念に過ぎざるものと觀じ、斯くて各人は彼れが自己に割當てたる特殊の任務と最も善く調和する意味、殊に範圍を重商主義なる語に與ふるの自由を有せざる可らずと說き、而して彼れは、彼れの目的の爲めに、此の概念を、保護的制度及び貨幣的施設に依つて結局政治的統一と勢力とを求むる經濟政策の一連として定義した。(Mercantilism, autorized Translation by Mendel Shapiro, Vol. I, 1935, Introduction: The Argument.)

ジョンソン氏は言ふ、「ヘックシャーの愼重と寬裕も終に「重商主義」の意義不分明を除去することを得なかつたと。而して彼れ自身は是れ迄、屢々此の語を使用し來つたのであるが、而も、漸次、批評的範疇としては「重商主義」は最早特に有用なる語に非ずと做すの結論に到着するに至り、而して此の書中に於いては、能ふ限り斯くの如き語法を避けんことを期した。(ibid., p. 4.)。

吾人の如きも久しく「重商主義」なる語義の曖昧に困惑し、遂に之れを廣狹二義に區別し、廣義に於けるマーカンチリズムの學說を以つて、中央の主權によつて行はるゝ奬勵若しくは制限に由つて、私的及び部分的利益をして國民的强大及び獨立を助成す可き共同の利益と一致せしむ可き組織的商工國家建設の時代に於ける實際的活動の理論的方面と做し、狹義に於けるマーカンチリズムの共れをブルヂュワたる商人階級的利害、並びに特殊商人の關與せる業務上の利害の見地より主張せられたる理論と觀、而して、是れ等二種のマーカンチリズムの理論間には、最初よりして一定の矛盾の存したる旨を述べ、一方の根本的傾向が專制主義的、統制的、全體的であつて、一切の經濟的關係を整理するの任務を個人に求めずして、之れを國家及び政府に歸せるに對し、他方のものは個人主義的、自主的、特殊的であつて、惟り當時のブルヂュワ的利益、殊

に商人的利益を擁護し增進し得る限りに於いてのみ、國家及び政府の統制及び干渉を希望せることを認め、而して經濟上の諸問題に對する支配的階級間に於ける特殊的利益の矛盾衝突は遂に這般の問題に關する論述を哲學的討究の下に置くに至らしめたることを說いて、アダム・スミスへの理論的發展を明かならしめんことを企圖したのである。

ジョンソン博士に取つては、曖昧なる飽嚙は役立つことなきものであつて、强調を要する眞個重要事は、甚しく相違せる修養、利害及び偏執を有する極めて多數の人々が『國富論』出版の年たる一千七百七十六年以前に於いて經濟問題に關する書籍及び小冊子を公にせること、而して、其の結果として、實體としては不完全であり、拙劣ではあるが、確實なる根據を有するものであり、保存するの價値ある多くのものを含有しつゝある經濟觀念の染分け織を產するに至つたことである。アダム・スミス以前に於ける總べての英國經濟文獻を讀破するは數年を要す可く、而して多樣なる成分の總べてを鑑別するの業は一生涯を要す可きである。然しながら、本書の著者は、斯くの如き難事業を回避して、第十六、七及び八世紀の間に出版せられたる書籍及び小冊子の大多數を感發せしめたるより基性的なる關心事を可なりによく代表する典型的著者を選拔するの便法を講ずる。斯くて、彼れは實質的及び知識的息吹きの種々なる典型を代表する十人の著者を選拔する。(ibid., pp. 10-11.)。人本主義者ジョン・ヘールズ、獨斷家デェラール・ヅ・マリーン、批評家エドワード・ミセルヅン、戰略家トーマス・マン、實驗主義者サー・ウイリアム・ペチィ、科學者ニーヘマイア・グリュー、宣傳家チャールズ・キング、綜合者デーヴィッド・ヒューム、操觚者マラッカイ・ポストルスウエイト、政治經濟學者サー・ジェームズ・スチュアートが是れである。著者は其の著の第二部「新たなる諸問題に對する新たなる態度」に於いて、逐次、是れ等の十家に就いて論述する。彼れは更らに第三部「生產の原始的理論」に於いて、「土地及び勞働」「『技術』及び『巧妙なる勞働』」「懶惰及び奢侈」「『製造品の輸出』及び『外國の支拂ふ所得』」の四項目を論ずる。

若し評者あつて、本書が英國に於けるアダム・スミスの先蹤の總べて、若しくは彼れ等の學說の總べてを論述することなきを難ずるならば、著者は率直に、斯くの如き野心的事業は斷じて彼れの意圖する所に非ざる旨を答へんとする。(ibid., p. 16.)。

吾人はジョンソン博士によつて列擧せられたるスミスの先輩十家の中、殆んど其の總べてに就いて幾分の知識を有し、又、是れ迄に彼れ等の著作に就いて多少の記述を行つたのであるが、惟りニーヘマイア・グリュー(Nehemiah Grew)の經濟學に對する寄與に關しては全く無識であり、從つて、今日に至る迄何等彼れに就いて記すことをしなかつた。吾人は唯だ彼れの名を植物解剖學者として知るに過ぎなかつた。彼れの名著 The Anatomy of Plants, 1682. を知るも、而も「ランスダウン寫本第六百九十一號」として大英博物館に所藏せらるゝ寫本 The Meanes of a Most Ample Encrease of the Wealth and Strength of England in a Few Years humbly represented to her Majestie in the Fifth Year of her Reign. を知ることのなかつた者は實だに淺學寡識なる余のみではなかつたと思ふ。アン女王の登極が一千〇二年なるより推して、此の短論文は一千〇七年に草せられたるの觀がある。彼れは解剖學及び生理學の語法を以つて經濟的分析を行ひ、英蘭土及びウェールスの四つの根本的なる解剖學的構成部分を、土地・手工的技術即ち製作、海洋及び人民と做してゐると云ふことである。此の書は不幸にして未だ寫本のまゝに殘存してゐる。(Johnson, pp. 117-119.)。ジョンソン博士の著中グリューに關する部分は既に『米國經濟評論』誌上 (American Economic Review, XXI, 463-480.) に揭載せられたものではあるが、吾人は此の大植物學者

の經濟學に對する貢獻を初めて博士の研究に依つて知り得たる點に於いて、特に本書に敬意を表するものである。

博士は本書を草するが爲めに、英國の諸圖書館に於いて資料を蒐集したのであるが、殊にサウスケンシントン倫敦大學本部に屬するゴールドスミス圖書館に負ふ所大なりしことが記されてゐる。(p. ix.)。余も亦、今より二十六年の昔、倫敦に滯在し、當時未だ利用する者極めて稀れであつた同圖書館に通ひ、スミス以前の經濟文獻を涉獵することを日課としたのであるが、遂に何等の業績をも擧ぐること能はざりしを深く愧づるものである。

（菊判四二六頁、三越洋書部賣價金十二圓七十五錢）。

前號（第三十一卷第十號）目次

◉效果計算と原價計算の關係　小高泰雄
◉米國に於ける取引所制度改正の概要　向井鹿松
◉勞働者心理學の體系概觀　藤林敬三
◉古版經濟書解題　高橋誠一郎
サー・マシュー・デッカー著一千七百四十四年版『外國貿易衰頽の原因に關する試論』
◉A. E. Hindmarsh, The Basis of Japanese Foreign Policy, 1936　寺尾琢磨

◉一冊定價金五拾錢　郵稅金壹錢五厘
◉半ケ年分金貳圓九拾錢
◉一ケ年分金五圓四拾錢　郵稅共
◉編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
◉營業に關する用件は發賣元宛
◉原稿締切期日は發行の前月十日限
昭和十二年十月卅一日印刷納本
昭和十二年十一月一日發行　毎月一回一日發行
三田學會雜誌
禁轉載
第三十一卷第十號
編輯兼發行者　東京市芝區三田二丁目二番地慶應義塾内　江田範保
印刷者　東京市赤坂區新町五丁目四十二番地　金子鐵五郎
印刷所　東京市赤坂區新町五丁目四十二番地　金子活版所
東京市芝區三田二丁目一番地
發賣元　丸善株式會社三田出張所
電話三田(45)一九二六番
一九二七番
振替口座東京一八五二番
◉尚ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す
發行所　東京芝三田慶應義塾内　理財學會
振替口座　芝區三田二ノ二　東京一八二〇四番　慶應義塾